

# 第16回北広島市総合計画推進委員会 会議録

日 時	平成27年6月19日(金) 10:30~12:05
会 場	市役所本庁舎2階 会議室
出席委員	天羽 浩委員、谷本雄司委員、鈴木聡士委員、桂 裕章委員
欠席委員	武者加苗委員
市出席者	【企画財政部】中屋直企画財政部長、川村裕樹次長 【企画課】加藤文博主査、高嶋真一主査、大西岳主任 【財政課】田中宏明課長

## 1. 開会

「委員の過半数が出席していることから、委員会が成立していること」を確認した。

## 2. 出席者の紹介

平成27年6月1日付で新たに委嘱を受けた委員の紹介及び事務局の紹介を行った。

## 3. 委員長及び副委員長の選出

委員の中から事務局案の提案に一任したい旨の発言があり、事務局案として、委員長に鈴木聡士委員、副委員長に天羽浩委員とする案を提案し、了承された。

## 4. 会議録署名委員の選出

委員長の指名により、天羽委員を第16回推進計画委員会会議録の署名委員としたい旨提案があり、了承された。

## 5. 議事

### 【議案1】総合計画中間年度見直しに向けて

事務局より総合計画の推進結果と、今後の課題として挙げられているものの中から、見直しにおいて課題となるものについて説明

<議案1について事務局より説明(第1章第1節~第3節まで)>

### ○B 委員

乳幼児健診未受診者の把握、居所不明児の把握は、現状で行っていないのか。

### ○事務局

国・北海道の調査に基づく把握を行っており、現状で居所不明児は0名、乳幼児健診未受診者はいるが、捕捉しており、電話等でアポイントメントをとれる状態である。

### ○A 委員

ジェネリック医薬品使用促進の取組みによる医療費適正化とは、国民健康保険事業の中での取組みを想定しているのか。また、ジェネリック医薬品使用促進に係る市の取組みとしては、具体的にどのようなものがあるのか。

## 第16回北広島市総合計画推進委員会 会議録

---

○事務局

国民健康保険事業の中での医療費適正化であり、医療費明細で医薬品の使用を把握し、ジェネリック医薬品を使用していない場合には、ジェネリック医薬品の使用を促す取組みをしている。

○A 委員

それは、病院等に行うものなのか。市民向けに広報活動のような形で行うものなのか。

○事務局

具体的には、医薬品を購入する薬局を通してジェネリック医薬品の使用を促している。薬局によって、ジェネリック医薬品の使用について確認するところ、ジェネリック医薬品を使用してもよい旨のカードの提示がない場合は通常の医薬品を出すところ、など対応は分かれている。

○A 委員

現状で、ジェネリック医薬品の使用割合はどのくらいなのか。

○事務局

確認する。

○委員長

ジェネリック医薬品の使用促進については、おそらく国の役割と市の役割があり、どの部分でどのような役割があるのかを把握することが重要なのではないかと。今後は、市の役割を整理したうえで、より効果的な取組みをしてもらいたい。

○A 委員

福祉事業を営む民間事業者の中には、社会福祉法人も含まれているのか。

○事務局

福祉サービス事業に係る専門的能力やノウハウを持つNPOや社会福祉法人等を広く含んだ民間事業者である。

○委員長

学童クラブの施設について、学校の中に学童クラブはないということなのか。それとも、現状で既にあるが、今後増やしていくということなのか。

## 第16回北広島市総合計画推進委員会 会議録

### ○事務局

学校内に学童クラブが併設されている所は1か所あるが、これを他の学校に拡大していくということではなく、学童の対象学年が3年生までだったのが、今年度から4年生に拡大し、今後さらに拡大していく中で、必然的に受け入れの定員が増加することが見込まれるため、それに見合った形で、学校内に限らず学童クラブの整備を進めていく。

基本的には、学校内に学童クラブがあることが望ましいという意見が多く、現状では児童数が減少傾向にあるため、学校に空き教室が出てきていることから、空き教室を使って学童保育をするという視点を盛り込んだ表現となっている。

### ○委員長

学童クラブをただ増やすというよりは、安全確保という視点から、学校内において学童施設を一体的に整備することがポイントである。

### ○C委員

4月に出席した市民会議の中では、安心して出産・子育てができる環境について話し合わせ、多くの意見等が出されたが、出産の関係について、今回出された新たな課題も含め、総合計画の中で触れられているのか。

### ○事務局

現総合計画が策定された5年前は、妊娠期からのケアが中心で、出産の視点が抜けていたところであり、担当課からの課題としても上がってきてはいない。今回の市民会議や推進委員会での意見を踏まえ、出産が大事な視点であるという認識を持って、今後検討したい。

### ○C委員

市民会議において、出産に関しては、若い母親や女性から意見が活発に出されたところであり、それらの意見等についても総合計画に反映すべき。

### ○委員長

出産は大事な視点の1つであり、検討の余地がある。

<議案1について事務局より説明（第1章第4節～第6節まで）>

### ○B委員

こども医療費への助成について、現状についてもう一度教えてもらいたい。また、平成28年度予算が増額されている根拠は。

## 第16回北広島市総合計画推進委員会 会議録

### ○事務局

入院費の助成については、0歳から中学生まで、通院費助成については、いままでは未就学児童までを対象としていたが、今年度小学6年生までに拡大をし、それぞれ通常3割負担であるところを1割負担になるよう設定した。平成28年度予算では事業費が増える見込みだが、制度の拡大ではなく、トレンドによって事業費が増えている。

### ○委員長

子ども医療費助成について、所得制限は設けているのか。また、制度の安定的な運営のためのバランス感覚として、どの範囲まで助成対象の拡大を考えているのか。

### ○事務局

所得制限は設けているが具体的な金額については確認する。

他市町村では、中学生まで医療費が無料としているところもある中で、ただ単に対象を拡大することは、一般財源の持ち出しが増えることにつながるため、なんらかの色を付けて助成対象については検討していきたいが、現段階では、具体的な検討はしていない。

### ○B委員

児童生徒数が減少傾向にあるのに、なぜ医療費助成の予算が拡大しているのか。

### ○事務局

児童生徒数は減少しているが、病院に通う回数が増加しているため、予算が増加している。

<議案1について事務局より説明（第2章第1節～第2節まで）>

### ○A委員

団地内小中学校の小規模化が著しいとあるが、どのくらいの小規模化なのか。

### ○事務局

クラス編成ができない、部活動ができないくらいの小規模化であり、団地内4校を2校に統廃合しても、1学年で30人をきるくらいの規模である。

### ○A委員

小学校や中学校の統廃合は、市が行うものなのか。

### ○事務局

小中学校の設置者は市長であるため、統廃合は市が行う。

## 第16回北広島市総合計画推進委員会 会議録

### ○B 委員

今後の施策の検討として、小中学校の統廃合化と子供を増やす施策、どちらを優先させていくのか。

### ○事務局

両にらみということである。小学校については統廃合してまだ3年しか経過しておらず、通学している児童の教育の面のタイミングも考慮しながら検討していくこととなる。

### ○委員長

学校給食の食物アレルギーや異物混入について、今までの取組みはどのようなものなのか。

### ○事務局

啓発的な部分での取組みをしてきており、こちらを拡大していくというもの。具体的には、異物混入対応マニュアル、アレルギー対応の注射の対応など。アレルギー除去食はつくっておらず、アレルギーを持った児童には自分で弁当を持参してもらっている。

<議案1について事務局より説明（第2章第3節～第10節まで）>

### ○C 委員

中間年度点検結果報告書33頁の施策1において、広域的な交流の促進の中で、札幌市厚別区との交流事業の記載があるが、清田区と接する大曲地区は人口が増えてにぎわいをみせており、いずれ羊ヶ丘通りも国道36号線に接続され、地下鉄延伸の話もある中で、市民レベルの交流の枠の中に、清田区も取り込んでみてはどうか。

### ○事務局

施策として清田区との連携について記載はないが、清田区役所内の情報コーナーに北広島市のパンフレットを配架しており、今後連携できるものは検討したい。すでに自治会レベルでは、清田区と大曲地区でそれぞれの地域の行事で交流を行っていると聞いている。生活圏域の中で連帯性を持った地域であるので、今後はその視点も検討したい。

### ○A 委員

カナダのサスカトゥーン市との相互派遣交流とはどのようなものか。

### ○事務局

姉妹都市ではないが、外郭団体である国際交流協議会が毎年交互に交流をしている。市がサスカトゥーン市とやり取りをするのではなく、国際交流協議会が調整を行っている。

## 第16回北広島市総合計画推進委員会 会議録

< 議案1について事務局より説明（第3章第1節～第4節まで） >

○B委員

避難所の整備について、すでに指定された避難所を整備するというのか。

○事務局

すでに指定された避難所の中で、冬期間使用する場合のストーブの設置、停電時の対応として発電機の設置等の整備を検討していく。

○A委員

カラスの駆除、エゾシカの駆除とはどのようなものなのか。エゾシカによる農業被害は、なぜ環境保全の分野に入っているのか。

○事務局

カラスの巣の駆除や、ごみ最終処分場での猟友会によるカラスの駆除である。

エゾシカについては、山間部と隣接したところを中心に農業被害が出ており、くくりわな等によって、年間で44頭程駆除している。この点において、農業振興の視点も入ってくることから、改めて整理をしたい。

○委員長

エゾシカについては、交通事故の問題のほか、希少植物への食害の問題もあり、幅の広い視点が必要。

○委員長

空間放射線量率やPM2.5の継続的監視について、市独自で実施しているのか。

○事務局

空間放射線量率の測定については、平成25年度から市独自で実施しており、測定結果についてはホームページにて公開をしている。PM2.5の測定については、市独自では実施しておらず、札幌市等の近隣で測定された数値を情報提供している状況。今後については、市内で計測する必要があるかどうかも含めて検討していきたい。

○A委員

太陽光発電の設置補助について、申請した者全てに助成するわけではないのか。

○事務局

予算の枠があるので、先着順ということになる。助成額は、1kwあたり5万円で、上限は15万円である。市内設置数を見てわかるように、設置の需要は一定程度あると考えている。

## 第16回北広島市総合計画推進委員会 会議録

---

<議案1について事務局より説明（第3章第5節～第8節まで）>

○B委員

救急搬送の到着時間は分かるが、搬送時間についてはどうなっているのか。市内には大きな病院がないため、どうしても札幌市等の病院へ搬送することになると思うが。

○事務局

搬送時間については、確認する。

一般的には、救急車が到着してから病院へ搬送するが、患者が指定した受け入れ先に搬送することになる。

○A委員

全国の自治体の中には、救急搬送の有料化については検討するところもあるようだが、市で検討しないのか。

○事務局

今のところ有料化については検討していない。

○A委員

消費生活センターとはどのようなものなのか。

○事務局

市で相談員を配置し、消費者被害の相談を受けている。

○委員長

北広島市は自転車利用が多いと思われるが、啓発はどのくらいのレベルのことをやっているのか。

○事務局

交通安全推進委員が小中学校に出向いて啓発をするというもので、継続をして実施をしている。

<議案1について事務局より説明（第4章第1節～第6節まで）>

○委員長

エゾシカ被害対策の助成については、農水省の交付金を使いつつ、独自の取組みをしているのか。

## 第16回北広島市総合計画推進委員会 会議録

---

### ○事務局

猟友会に補助をしながらエゾシカの駆除を行っているところであるが、国のほうで、鳥獣被害対策実施隊を設立した場合の補助制度が創設されたことから、今年度鳥獣被害対策実施隊を設立し、7月から交付金を受ける体制を整えている。

4月～6月までは単独で活動となるため、市独自で補助をする。

### ○A 委員

市内に猟友会はあるのか。何名くらい所属しているのか。

### ○事務局

市内に猟友会はある。20数名が所属している。

### ○委員長

第5章以降は、次回に持ち越しをしたい。

### 6. その他（次回開催日程についてなど）

次回の委員会は、6月中または7月上旬に開催予定とした。

### 7. 閉会

会議録署名委員

---